

# 送 辞

冬の厳しい寒さが和らぎ、少しずつ暖かな風が流れてきている今日という日に、愛知産業大学工業高等学校から、先輩方は巣立って行かれます。ご卒業、誠におめでとうございます。

私たちが入学したときから、私たちの目には、先輩方はとても大きな存在として映っていました。部活動では、特にたくさんの方のことを教えていただきました。入学当初、これが高校生か、と、力の差に驚きもしました。まだ練習についていけない私たちを、厳しくも、優しく指導してくださいました。

いました。後輩として大切に指導していただきましたこと、感謝をしております。資格取得の講習では、先輩方と共に勉強する機会をいただきました。電気工事士の実技試験講習では、真面目に黙々と作業をこなす姿に圧倒させられました。資

格取得に対する熱意、講習に休まず出席する勤勉さは、ジュニアマイスター特別表彰二名、ゴールド一名、シルバー九名受賞という結果をもたらしました。努力は実る、を実体験で教えていただいたように感じます。また、あけぼの学園奉仕活動

での、清掃に取り組む真摯な姿、子供たちに笑顔で接する姿を見て、社会に貢献する、ということを行動で教えていただきました。奉仕活動ではいつも率先して動く、その姿に感銘を受けました。さらに生徒会活動では、様々な場面で私たちを導いてくださいました。

そんな、私たちにとって頼りになる先輩方は今日、卒業されます。そして、四月から、社会人として働かれたり、上級学校へ進学されたりと、新たな道へ進んで行かれます。社会に出ること、上級学校で学ぶことは、とても苦勞が多いと聞き及んでおります。しかし、私は先輩方なら大丈夫だ、と自信を持って言うことができず。私たちを教え、導いてくださったその姿、頼もしさを見てきて、どのような苦勞もきつと乗り越えられると確信しています。

そして、先輩方が卒業され、来年度からは私たちが最高学年となります。今までいろいろと甘えてきたところもあり、不安は尽きません。しかし、新たな世界で活躍される先輩方に恥ずかしくな

いよう、私たちも、最高学年として立派に後輩たちを教え、導いていきたい、そう考えています。これから、先輩方と私たちが進む道は分かれます。ですが、共に歩いた道がなくなることはありません。この愛知産業大学工業高等学校という場所ので共に歩んだ日々を心の片隅に置いていただき、辛いとき、苦しいとき、応援している後輩たちがいることを思い出していただけると、嬉しく思います。

この二年間、本当にありがとうございました。

お別れに臨み、先輩方のご健康と、益々のご発展を祈念申し上げ、送別の言葉とさせていただけきます。

平成三十年二月二十八日

在校生総代 榎本 修也